

## 心の壁を取り払う

このたび、皆様のご理解・ご支援の下、協奏分子システム研究センター（CIMoS）の拠点が明大寺地区・南実験棟3階に完成しました。ここでは、企画から改装に至るまでの経緯をお伝えできればと思います。

そもそもの出発点は、「CIMoSらしい拠点とは？」という素朴な問いかけでした。CIMoSでは、「分子それぞれの性質が分子システムの卓越した機能発現にどう結びつくのか」という学問横断的な重要課題に挑戦しています。必然的にセンターには、生命科学から物質科学そして理論・計算までを含む、幅広い学問領域の研究者が集うことになります。異分野融合は決して容易でなく、壁を取り払った交流を通じて新しいアイデアを発信していくためには、「同じ釜の飯を食う」という地道な作業を丁寧に積み重ねていく必要があります。このような趣旨の意見交換を幾度となく重ねた末、「開放感や充実感のある空間」という基本コンセプトに至りました。

CIMoSの新拠点には2つの特徴があります。一つ目は、入り口付近より広がる大居室です（図2）。おおよそ研究グループごとに島状に配置された机を使用しますが、それぞれの島は会話ができる程度の近い距離にあり、また島同士を遮るようなパーティションは存在していません。このような空間を「大きなひとつの研究室」として捉え、お互いの研究内容やその取り扱いに配慮しつつ、科学的な議論や交流をオープンに進めています。

二つ目はPIの居室です。大居室の奥にはPIの居室エリアが設けられていますが、このエリアの廊下側および大居室側壁面はガラスパーティションを採用しており（図3）、PI同士だけでなく、大居室側からも一定の見通しが期待できる設計となっています。運用を始めてから間もないのですが、幾つか良い感触が得られつつあります。まず、PI同士の距離が近まることです。顔を合わせたり、挨拶する頻度が劇的に増えます。これは否応無しにそうなります。次に、雰囲気が明るくなります。窓からの自然光や照明光が遮られないため部屋だけでなくフロア全体が明るくなり、それに伴って気分も明るくなります。最後に、PIの部屋を訪ねやすくなる点が挙げられます。明るくて見通しの良い部屋には入りやすいものです。

学問および人の交流をオープンにすることによる利点はそれを十分に上回るものと期待されます。また、研究グループあたりの人数が平均的に少ない場合、このようなシステムをうまく運用することができれば活性化の一助となるはず（図4）。このような新しい取り組みに際しては、予期しなかった利点や問題点が生じるものですが、そのような経験を通じて若手研究者が互いに成長を促しあえるような場にできればと思っています。

最後になりましたが、CIMoSの拠点を整備するにあたり、配慮頂きました平等グループの皆様、設計を担当頂きました施設課の皆様、そして細部まで心のかもった対応をして下さった技術課の皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。

（秋山 修志 記）



図1 木村文部科学省学術機関課長の訪問



図2 自身の研究に取り組みつつも、開放感ある空間で他分野との情報交換を積極的に行う。



図3 PI居室の一例



図4 交流スペース。雑談から研究打合せまで幅広い用途に応えることができる。写真は拠点完成をお祝いする会の様子。所長、総主幹、CIMoSに関係するメンバー、技術課、施設課等より参加頂いた。